

3. 2008年度事業計画概要

I. 中期展望と2008年度の方針

◇NPOの進む道

これからの日本社会が活力を取り戻し各人が精神的・物質的に充実した生活を実現するには、民間非営利セクターが大きな役割を果たします。中でも市民が主体的に関るNPO、即ちわれわれがCSOと呼ぶ組織の健全な発達が必要です。旧来の政治・行政・企業システムでは現在の閉塞感を打破することは出来ないと思われま。NPOの活動を促進する社会環境や制度の整備が急がれるところですが、政治・行政・マスコミをはじめとして、社会全体にその認識は十分ではありません。それは私たち民間の中間支援組織の大きなミッションの一つですが、しかしそれには相当な時間がかかりそうです。

環境や制度が整うまで待つのではなく、現在の状況がある程度は前提に、NPO自身が厳しい経営努力を重ねて行くことが求められます。そのような経営努力をサポートし、NPOの持続的経営のモデルを創り出していくことが、現在のKECの第一のミッションです。同時に、NPOを取り巻く環境や制度について提言しそれらを変革していくことが、もう一つの大事なミッションです。

困難ですが、この二つは車の両輪であり、前者を追求する中から後者への示唆も得られます。中間支援組織としては、この両方を追いつけてゆく必要があります。

※以下、用語としては一般化した「NPO」を用いますが、念頭に置いているのはCSOと呼ばれる、市民発のNPOです。

◇KECの中期戦略

昨年度までの蓄積を元に、中期的に次のような展望を描いています。中期とは3～5年程度を指します。

○NPOへの経営支援

アドバイザー派遣系事業によるNPOへの個別・出張型コンサルティングを支援の軸に据え、NPOが中長期の展望・計画を持てることを目標とする経営支援を行います。

並行して、ファンドレイジング、広報その他のマネジメントのノウハウについて、適宜集合研修を行い、知識・技術の普及に努めます。中間支援組織スタッフなど、「支援者へのスキルアップ研修」なども、ニーズとして大きくなってきています。

○仕組みの変革

経営支援を通じてより深く見えてくる「NPOを取り巻く社会環境の課題」「NPOを支える制度・仕組みの不在」について積極的に発信し、かつ働きかけていきます。具体的には、行政からの委託にまつわる諸問題や、各分野において制度から取り残されているニーズに対してNPOが対応しているその状況の問題など。後者については、各分野のNPOとも連携して働きかけをしていく必要があります。

○ネットワークづくりの促進

大きな状況を変えていくためにはNPO自身が当事者意識を持って問題に取り組む必要があります。現場のNPOにはなかなかその余裕がないのが実情ですが、そのためにこそネットワークを組む必要があります。ネットワークは互いの切磋琢磨や情報交換にも役立ちます。KECはその触媒の役割を果たして行きます。

◇財政面と事業の優先順位

3期連続で赤字を出して繰越金も残り少なくなり、もう後がありません。各事業の採算性吟味をとことん厳しくしていくとともに、収益の柱を確立する必要があります。幸いこの2年あまり、大きな委託事業に頼らない方向を進めてきましたので、地力はついてきました。

1) アドバイザー派遣系のNPO経営支援事業と2) 講師派遣・講座の企画実施事業が2本柱です。財政的に重要なのは2)です。これは潜在性は大きいものの、開発する時間をこれまで十分に割けずに来ましたが、今年度は相当な資源を投入し、柱に育て上げたいと思います。加えて、長く赤字であった3)「神戸元町NPOポート」（共同オフィス）事業が黒字化して来たので、今年度はなんとか黒字転換できると考えています。

構造としては、どうしても「仕組みの変革—基盤整備・アドボカシー分野」では資金調達が困難で、まだしも活動資源が得やすい「NPO支援分野」で資源を得、その余力で基盤整備の活動を行うという形になりがちです。「NPO支援で資金を得る」といっても、受益者たるNPOにそれほどコスト負担力があるわけではありませんから、中間支援組織をめぐる状況が厳しいことに変りありません。基盤整備・アドボカシーに直結し、しかも必要資金も確保できる事業——調査研究に対する委託や助成など——は常に探しており、良いものがあれば積極的に取り組みたいと考えています。

2008年度は、ミッション性と採算性から以下の3つに事業を分け、資源配分の優先順位を厳しく付けて活動を行ってまいります。

優先度A——最高度に優先する事業

優先度B——Aに準ずる事業

優先度C——それ以外の事業

優先度	事業
A	5－(2)～(4) NPO等育成アドバイザー派遣事業・小規模作業所等事業サポーター事業、子育てNPOの経営支援と仕組み作り事業、NPOの中期計画づくり支援事業 5－(6) (7) 学び支援（講師派遣）事業、講座企画事業 7. 「みみずく舎」業務受託事業
B	1－(1) NPOの財源に関する調査研究と提言 2－(1) 外部資源開発事業 3－(1) 機関誌「みみずく」の発行 3－(3) ウェブサイト 5－(8) ひょうごん福祉ネット支援事業 6. NPOへの拠点提供（神戸元町NPOポート運営）事業
C	上記以外の事業

◇体制面

最後に組織体制ですが、年度当初8月に1名が加わり、常勤5名体制（KEC3名、みみずく舎2名）となりました。当面はこれでやっていきますが、必要に応じて、非常勤スタッフの採用を検討したいと思います。

職員以外にも、最近はインターン、ボランティアの参加が多く、活況を呈してきました。引き続き、市民参加のボランティア団体と専門性の高いNPOの両立を志向し続けたいと思います。そのためには中間支援組織に求められる専門性とは何かを問い続け、ボランティアを含めスタッフの専門性向上にたゆまぬ努力を続けてまいります。

II. 事業一覧

A) NPO活動を支える仕組みづくり

1. 調査研究と政策提言事業
 - (1) NPOの財源に関する調査研究と提言
 - (2) NPOに関わる制度改正運動（NPO法、税制等）
 - (3) その他の調査
2. NPOのための資源開発事業
 - (1) 外部資源開発事業
 - (2) NPO助成財団シンポジウム事業
3. 情報発信事業
 - (1) 機関誌「みみずく」の発行
 - (2) メールマガジンの発行
 - (3) ウェブサイト
 - (4) FMわいわいでの情報発信
 - (5) サンケイリビングでの情報発信
4. ネットワーク事業
 - (1) ひょうご市民活動協議会（HYOGON）事務局
 - (2) 他団体の役員就任、研究会への参加等

B) NPO支援

5. NPOの経営支援事業
 - (1) 相談事業
 - (2) NPO等育成アドバイザー派遣事業・小規模作業所等事業サポーター事業
 - (3) 子育てNPOの経営支援と仕組み作り事業
 - (4) NPOの中期計画づくり支援事業
 - (5) 「NPOの自主事業を強化する7つの方法」セミナー
 - (6) 学び支援（講師派遣）事業
 - (7) 講座企画事業
 - (8) ひょうごん福祉ネット支援事業
6. NPOへの拠点提供（神戸元町NPOポート運営）事業
7. 「みみずく舎」業務受託事業
8. その他の事業
 - (1) 能登半島地震被災地支援事業
 - (2) 会館事業
 - (3) みみずく書房事業